



駿書雜記

三

15
1597
3



門 15
號 1597
卷 3

冊 五
號 三
函 三

駿臺雜詔卷三目錄

禮集



天下々天下此天下
秋田壹波
阿閉掃部
歲寒知松栢
烈女種や
天野三舟兵衛
二人の乞児

直諫と一巻繪より註

伴大膳

士の風義

手折しよる春風

澤橋の母

結糸のゆり



とやうにも親と親と一賢と賢と一我等といふは徳也位也
もなきや一美をましくも樂と樂一に利を利して優游して
卒^{おと}卒^{おと}卒^{おと}皆恭平の徳はわらばや歐陽永叔豊樂亭記
著しく宋の太祖四海の礼を定むる天下に人きいておやう
既百年恭平此樂之安んせしむ多き其恩のゆきと志ら
しといふ事も前も亦おとく死す

東照宮凡は櫛す雨よ沐し沛一生の力をあつて授け及正
徳のくよと今百有餘子に及る干戈動る四海浪好し
て天下恭平の化は治志ぬ又誰に恩此ゆも美と戴りさる
ゆふ我と死や一美をかく申さるべき事おれも上の所盛徳

どの爲く世は徳く磨りく儒臣の事なれざしてゆく様
るべきやわらば治るべきはきくは徳徳の事おれも中よ目こ
るゆ奉感るおよひを世もあつて徳治とともいひ徳を奉わ
今恭平あつて治るゆりて天下も天下の天下一人の天下はわら
るといふやハハ翰の書よいて天下の君ら一人に常に志るや
きくゆやくは最萬世不刊の名言とて徳はさきと中興あつて
三代を降くともあつて創業の君は天下を治るを一人の樂と
て天下は天下やするやうに明の太祖創業のくも中興
徐達軍中や疾を得ると風俗よくともさるも諸國を
よく治る療治せらるるやも徳はさきと中興あつて

徳はさきと中興あつて

比、信長秀吉とて、志し、行き、不仁にして天を失く
さり、事なく、志し、やう、天下とて、多もの、意、是れ、古
人も、深山有寶無心、於寶者得之、とて、必、以、せ、し、天、平、十、四
年、の、事、と、て、長、湫、合、戦、の、後、

東照宮すく、豊臣秀吉と、和、睦、相、違、い、秀吉使と、遠、列、漢
相、け、し、し、上、洛、と、號、し、て、大、坂、の、事、合、を、す、め、死、せ、し、る、事、も、
以、同、心、す、り、し、し、八、頻、使、來、り、す、事、數、回、及、り、や、あ、ら、せ、し、ま、
く、も、や、あ、ら、せ、し、し、し、八、秀吉母氏大政を、質、と、て、以、
ち、相、違、い、し、し、し、八、上、洛、わ、り、し、し、の、う、に、作、せ、れ、
し、し、八、那、危、き、り、し、し、し、八、一、回、の、事、と、て、さ、ら、に、し、し、

上洛す、し、し、八、秀吉、し、し、し、八、鋒、楯、及、び、し、し、し、八、河、ら、美、
し、し、し、八、及、び、し、し、し、八、一、派、と、す、り、し、し、八、御、ま、い、つ、秀、
吉、百、萬、の、兵、と、り、し、し、し、八、敗、き、ゆ、り、し、し、し、八、危、き、
五、以、越、す、り、し、し、し、八、秀吉の、威、勢、と、し、し、し、八、上、洛、せ、ん、と、し、
の、時、に、し、し、し、八、秀吉の、威、勢、と、し、し、し、八、上、洛、せ、ん、と、し、
中、を、わ、り、し、し、し、八、見、し、し、八、天下の、兵、乱、之、し、し、し、八、
あ、ら、も、干、文、と、し、し、し、八、於、鄙、安、堵、其、れ、し、し、し、八、
の、事、に、し、し、し、八、天下、の、事、に、し、し、し、八、某、秀吉と、許、楯、し、し、
よ、し、し、し、八、又、争、乱、と、し、し、し、八、天下の、大、難、と、し、し、し、八、
て、事、の、變、も、わ、り、し、し、し、八、其、時、と、天下、に、あ、り、し、し、し、八、

報國の志成に於て、終らば世におろしたる忠臣とて、是
よはすもは、我場此一妻陰々及くやとす。及たむと修
まるとやん。殊に万世子孫に於て、及たむとす。及
人君との承き鑑戒とす。及たむとす。及たむとす。

松田壹收

是よりよくしりし。陥陣先登す。及たむとす。及たむとす。
犯顔直言す。及たむとす。及たむとす。及たむとす。
陥陣先登の功と貴す。及たむとす。及たむとす。及たむとす。
す。及たむとす。及たむとす。及たむとす。及たむとす。

東照宮此上意と忘りし。及たむとす。及たむとす。及たむとす。

伊豫も殿の家老。松田を破ると。若わす。及たむとす。及たむとす。
其才の材とよく。微賤とす。及たむとす。及たむとす。及たむとす。
烈し。伊豫も殿。及たむとす。及たむとす。及たむとす。及たむとす。
分は。及たむとす。及たむとす。及たむとす。及たむとす。及たむとす。
此は。及たむとす。及たむとす。及たむとす。及たむとす。及たむとす。
直言とす。及たむとす。及たむとす。及たむとす。及たむとす。及たむとす。
左。及たむとす。及たむとす。及たむとす。及たむとす。及たむとす。及たむとす。
迎。及たむとす。及たむとす。及たむとす。及たむとす。及たむとす。及たむとす。
この。及たむとす。及たむとす。及たむとす。及たむとす。及たむとす。及たむとす。
万一の。及たむとす。及たむとす。及たむとす。及たむとす。及たむとす。及たむとす。

る所は其方とて解くは是も亦了れ也とわする。ハ
 家老も、はしとて。汝家のもあつちやうも。同部及汝事や
 とつひ。一。壹波一人事は。わすれぬ。此くして。非也
 と。信とて。いふや。たは。く。思わを。解ま。い。い。解。い。の。
 解也。壹波と。い。と。も。わ。と。わ。い。其。時。を。波。只。今。の。汝。之。取
 り。ゆ。う。う。と。す。う。解。い。其。事。は。な。い。ゆ。南。時。を。許
 解。解。い。の。汝。信。は。あ。う。と。た。ま。あ。く。汝。子。付。は。あ。い。ゆ。と。
 う。と。あ。く。ゆ。と。く。妻。子。と。い。ゆ。を。い。て。立。つ。れ。ゆ。と。解。い。ゆ。
 ち。ゆ。に。ゆ。と。い。ゆ。と。い。は。ま。さ。い。ゆ。と。い。ゆ。の。時
 汝。用。は。立。つ。ま。さ。あ。ゆ。と。い。ゆ。は。好。知。く。頼。と。い。ゆ。と。い。ゆ。

あ。よ。の。汝。之。了。す。お。解。あ。ゆ。ら。す。わ。く。ゆ。と。い。ゆ。一。は。伊
 豫。ち。後。太。子。の。事。は。折。り。は。是。は。何。と。い。ゆ。一。若。伊。豫
 ち。後。の。刀。を。ら。て。側。に。非。あ。う。と。い。ゆ。を。彼。に。非。と。立。ゆ。と。い。ゆ。
 と。壹。波。聞。く。其。人。と。い。ゆ。と。わ。す。る。は。し。と。ハ。汝。信。解。い。の。汝
 信。と。く。あ。う。ゆ。と。解。い。ゆ。ゆ。ゆ。と。汝。信。と。い。ゆ。一。壹。波。の。奉
 へ。と。さ。す。う。ハ。あ。う。ゆ。と。い。ゆ。と。す。う。ゆ。ゆ。と。い。ゆ。其。ま。脇。指。と。握
 く。し。信。は。ゆ。ゆ。と。い。ゆ。伊。豫。ち。後。の。事。を。い。ゆ。と。い。ゆ。ゆ。ゆ。と。い。ゆ。汝
 信。と。さ。す。う。ゆ。ゆ。と。い。ゆ。ゆ。ゆ。と。い。ゆ。ゆ。ゆ。と。い。ゆ。汝。信。と。い。ゆ。
 汝。信。と。さ。す。う。ゆ。ゆ。と。い。ゆ。今。汝。信。と。い。ゆ。ゆ。ゆ。と。い。ゆ。其。ま。そ
 汝。恩。の。報。い。奉。る。志。は。ゆ。ゆ。と。い。ゆ。ゆ。ゆ。と。い。ゆ。頭。成

是れとてや。も。さ。く。て。世。と。お。ひ。く。せ。城。幸。は。す。く。り
 寝。更。し。入。其。方。の。意。に。し。す。く。り。や。り。て。復。れ。ぬ。ら。ぬ。
 陰。の。意。も。よ。ひ。は。ひ。や。ま。ち。お。や。も。あ。は。す。と。う。く
 して。及。た。其。方。の。心。を。ゆ。く。感。し。た。く。は。は。す。と。あ
 事。や。く。ま。は。腰。の。物。を。賜。す。る。ハ。壹。波。も。お。ひ。お。ら。ぬ。事。や。く。
 お。ひ。お。ら。ぬ。海。の。噴。ひ。て。海。賜。して。ま。る。ま。あ。ら。ぬ。と。う。け。す。前。が。候
 よ。お。ひ。お。ら。ぬ。越。前。の。人。お。ま。く。信。す。る。ハ。今。お。ひ。お。ら。ぬ。松。田。を。し。て
 東。照。官。の。作。ら。ま。う。世。よ。あ。ら。ぬ。茂。家。老。と。り。あ。し。備。上。者
 陰。の。意。も。復。き。ぬ。よ。あ。は。れ。ん。と。う。

伴大膳

是。は。巧。倭。や。る。は。く。人。老。の。心。を。お。ひ。て。常。に。任。用。せ。ら
 る。事。も。大。切。の。事。や。別。直。や。る。人。や。ら。ぬ。と。う。用。は。あ。ら。ぬ。
 今。よ。付。く。右。の。松。田。と。ち。ち。ひ。あ。ら。ぬ。事。や。ら。ぬ。事。も。序。か。ら
 預。め。ら。る。傳。ら。く。大。坂。冬。の。陣。は。前。小。桐。市。正。持。別。當。也。此
 城。は。據。て。河。津。方。に。せ。し。に。第。一。小。倉。藩。の。泉。別。當。は。有。り。難。

甲。斐。や。ま。き。事。と。お。ひ。お。ら。ぬ。本。の。城。に。引。き。つ。て。西。よ。あ。ら。ぬ。と
 て。今。の。兵。か。く。引。き。く。け。ら。る。事。も。其。兵。備。列。尾。崎
 と。う。て。據。ま。い。り。難。ん。と。う。大。坂。より。兵。を。引。く。事。も。第。一
 の。兵。を。引。き。て。攻。め。る。程。は。尾。崎。の。城。に。援。兵。を。引。く。事。も。城

よす、救をこぼし、ハ、原本の兵のこらに討死し、ある、け時尼
 海の城と建設二十布幼少やる、一、加、播、列、池、田、武、藏、と、い、う、池、田
 越、前、文、城、大、藏、や、と、い、う、宍、保、よ、士、率、と、海、く、は、と、う、を、ま、る、ら、う、
 け、者、と、も、片、桐、と、叙、て、落、木、此、兵、と、救、を、さ、ら、わ、く、わ、ら、ぬ、世、中、に
 武、藏、と、大、坂、と、内、海、お、り、や、う、中、も、少、治、せ、つ、や、る、大、坂、と、一、多、以、池
 和、睦、の、後、系、二、條、此、池、城、と、い、ふ、事、池、金、藏、お、り、に、武、藏、と、武、家
 長、よ、伴、大、孫、と、い、う、者、と、と、中、も、よ、く、池、存、知、お、る、者、や、の、道、に、池、お、り、
 お、り、と、候、く、や、と、い、け、つ、と、い、ふ、事、と、も、池、懐、い、ま、る、と、き、ん、人、よ、お、り、
 こ、や、く、や、と、い、く、も、眼、前、よ、味、方、此、無、く、り、と、と、見、て、後、せ、つ、事、武、藏
 ち、ら、底、つ、さ、う、と、い、う、め、ら、う、は、池、存、知、も、其、事、も、池、存、と、多、く、勢

討らんと見なす。編指と撥くりし海のかけす。ハ、側へ匍匐する。ハ、
 小神の裳ます。是と池の子けもや、上とま、い、い、よ、い、池、す、
 一の池腹よ、ま、ま、ま、い、く、く、と、い、く、武、藏、も、池、孫、と、い、う、め、ま、る、池
 や、多、今、や、此、け、け、つ、と、い、く、は、け、け、つ、と、い、く、池、と、い、く、池、
 と、ら、や、池、と、い、け、け、つ、と、い、く、ハ、其、故、と、感、一、に、何、め、ら、う、者、
 よ、う、と、い、く、と、ま、ま、い、く、と、い、く、武、藏、も、池、孫、と、い、う、め、ま、る、池
 安堵す、や、め、と、い、く、と、ま、ま、い、く、ハ、大、孫、と、い、く、合、せ、平、伏、し、て、池、礼
 と、い、く、と、い、く、と、ま、ま、い、く、其、故、と、い、く、池、前、何、儀、の、危、危、と、い、く、
 ハ、お、の、大、孫、と、い、く、と、大、孫、と、い、く、武、藏、も、池、孫、と、い、く、父、と、い、く、池、
 弱年とく、池、と、い、く、池、と、い、く、ハ、一、時、の、馬、卒、や、け、つ、と、い、く、池、の、我、よ

へ招きよそれをもすに仕へく子孫相續して今もわら前加
加ふ有し時わら人けすを信るとまじし。も本。我若も此れも
やまはらすや。阿因の彼。事としひや。名のを合てあらし。
又伊勢の子の鑑の忌初は掃部を招て子のもあよとて成功の物
うるとも原に。はきとて。あゆすやとやをまとも。其の後の士
風哉とまやほしすも。是の初。今人孝も子とてたてゆまの
命。その初。忌初やまて。いひえ。鑑の忌初とす。大
鑑の家と存せ。我おとまのや。一。我士の孝も取ら。此
是も人。我の心。是と。我あや。ゆ。大小。兩刀。又。甲申。修。
の。一。神の。華。を。ま。あ。一。多。我と。道。々。と。と。さ。なる。體。あ。て

作。孝。初。と。我。家。の。治。世。よ。や。ま。り。一。よ。る。五。百。年。以。來。天。下。我
と。と。く。風。や。り。一。の。外。の。事。ハ。志。ら。は。我。の。一。筋。と。人。く。一。筋。に
志。ま。ら。儀。初。の。一。も。中。も。臆。あ。る。事。ハ。一。と。は。志。は。ら。く。あ
ら。も。脇。指。と。ま。ま。ら。文。道。よ。を。見。ゆ。一。く。一。や。ま。り。一。
き。方。あ。り。わ。る。く。し。と。も。是。程。よ。く。思。す。ゆ。く。一。我。の。一。筋。ハ
と。と。と。中。に。は。の。翁。の。ひ。て。そ。若。よ。り。ゆ。ら。そ。若。の。道。よ。志。ま
す。す。一。我。士。の。初。儀。也。一。我。と。志。ま。ぬ。や。ら。は。さ。く。ゆ。ら。聖。賢。の
の。域。よ。あ。ら。ん。す。も。雅。ら。く。一。と。わ。ら。は。し。と。や。も。我。も。義。氣
の。後。す。ゆ。一。百。や。ゆ。古。來。我。初。の。我。士。と。ん。ら。多。く。ハ。不。孝。に
く。文。道。の。金。瓶。ハ。一。と。く。し。と。も。義。よ。わ。あ。り。て。一。命。と。惜。也。

廉恥の心を失ふべし。武義のついでに申すべし。孫倉以
來教化を世に傳へては、其の功を以て武義の心を失ふべし。
凡そも維持し、國家も治平する事、其の功を以て武義の心を失ふべし。
武義の心を失ふべし。其の功を以て武義の心を失ふべし。
よき事と云ふべし。其の功を以て武義の心を失ふべし。

士の節義

ある所の命。古今節義の事。及ぶ所。前以て武義の心を失ふべし。
季路冉有の二子と父と君とを殺す事。其の功を以て武義の心を失ふべし。
かゝる志ある事。其の功を以て武義の心を失ふべし。
や。二子と孔門の高才。其の功を以て武義の心を失ふべし。

の不長と。其の功を以て武義の心を失ふべし。
る事。其の功を以て武義の心を失ふべし。
し。其の功を以て武義の心を失ふべし。
殺して。其の功を以て武義の心を失ふべし。
何れ。其の功を以て武義の心を失ふべし。
の平帝を殺す。其の功を以て武義の心を失ふべし。
術をす。其の功を以て武義の心を失ふべし。
の時。其の功を以て武義の心を失ふべし。
其原吉楊溥楊榮と。其の功を以て武義の心を失ふべし。
は。其の功を以て武義の心を失ふべし。

是皆一代之文儒として世に名をたつた人なり。是も
 志あり。李路冉有と^{義経}父典君^君に不従との終ふも二子大
 義ありあわく。及る事明^明ありて。然も元愔のたつたぬを聖
 人見居給く。この終ひぬぬと。實に容易の事なり。此
 死に家知せも。深義朝の父為義と殺すあり。元愔(其父と
 大悪と志^志ぬく。とかなきとも。君命と志^志ぬく。人許ら朝
 敵と志^志ぬく。人許ら。是を救ふ事計ひし。と志^志ぬく。深回
 心清やと。子^子志^志ぬく。業^業に終く。極くつひぬぬ。わがや
 と殺してき。彼二子と。やの場は。とく。たひ。余。景
 して。元愔と志^志ぬく。あり。わがや。義経と。も。深

家の名將と聞ゆまも。勇氣ちつ。す。義経より。志
 高^高なる。故も。是ほどの。理^理非^非。ま。より。多。にして。長回忠宗の
 おのま。あり。ま。と。し。親房^{親房}の。神皇正統
 記の。傳^傳ふ。して。最^最理^理。ま。高。ま。け。事。の。勅^勅業^業。と。し。て。元愔。記
 よ。する。と。義経。父。の。と。ひ。と。て。せ。く。あ。じ。す。大。ま。や。す。と。う。や。り。
 古今。中。と。き。う。の。倭^倭漢^漢。と。例^例や。勤^勤功^功の。業^業。と。し。て。志^志ぬく。も。
 自^自ら。退^退く。と。も。や。り。の。父。と。し。て。あ。す。と。う。道。や。り。の。志^志ぬく。名。り
 う。志^志ぬく。と。も。志^志ぬく。は。お。ま。其。身。と。し。て。す。ま。り。や。滅
 ひ。ぬ。事。と。天。理。や。り。あ。ま。や。う。お。す。と。し。て。志^志ぬく。の。う。の。は。さ。ら。す。
 中。朝。家。の。代。わ。や。り。と。志^志ぬく。よ。朝。議^{朝議}。お。る。人。と。志^志ぬく。其。志^志ぬく。

臣とわさるわすし... 諫めし... 大義は滅親
 とし... 石碯... 孟子... 父子... 保元平治... 天下... 丹波路... 旗本... 一黨...

驚き視て... 浄利運... 敗亡... 血判... 孟子... 大人... 死... 内務... 其時自殺... 賊堂...

勇壯義烈、けさも孝孺よおとろく、古今義氣の集り
 とし、後とや、あきけ時先朝の文成名と志と、あけ程の若、堪と
 と迎奉せし、あけ、け、徳長と、予、因、程、殉、ひ、す、と、終、の、威、を
 と、く、松、栢、と、志、成、も、く、過、孝、孺、の、才、孝、友、の、就、職、し、と、孝、孺、と
 て、と、ま、あ、く、八、九、族、門、生、し、後、と、ま、く、尸、と、前、は、精、を、入、く、も、一、た
 ひ、顧、る、事、な、ら、う、す、く、一、の、さ、す、の、兄、弟、の、志、を、思、ひ、く、く、や、わ、り、ん、
 お、身、と、為、濟、志、と、志、六、孝、友、詩、を、に、け、く、く、兄、の、孝、孺、よ、訣、せ、る、其、時
 阿兄何必淚潸、取義成仁在此間、華表柱頭千載後、
 猿魂依舊到家山、
 い、や、わ、り、ん、と、ま、あ、く、一、の、さ、す、の、百、世、の、下、あ、く、も、き、く、人、波、と、志、不

あり、と、され、と、殉、難、の、供、片、と、世、に、赫、着、す、る、事、と、く、傳、さ、八、今、史
 中、も、及、た、れ、あ、く、其、列、を、あ、れ、く、殉、死、と、し、傳、さ、り、て、是、也
 海、に、建、文、帝、よ、從、く、お、七、せ、く、二、十、二、人、を、く、中、も、翰、林、備
 選、程、洪、の、欠、苗、ハ、古、今、比、類、を、き、す、と、く、わ、し、そ、ま、は、は、き、く、建、文
 帝、の、始、末、と、名、と、く、く、一、く、若、く、並、終、へ、る、や、前、多、今、に、記、憶
 せ、く、多、く、う、ま、そ、く、せ、く、あ、く、も、あ、く、ひ、ね、と、ハ、只、
 わ、り、あ、く、と、物、治、し、傳、さ、し、大、程、の、時、懿、文、子、薨、と、建、文
 帝、嫡、孫、と、く、皇、統、を、繼、せ、く、帝、年、々、く、材、弱、く、あ、せ、
 くに、叔、父、の、燕、王、雄、才、わ、り、く、倔、強、強、制、し、く、一、程、百、歲、の、後
 國、を、の、變、わ、り、む、す、と、志、終、く、く、慮、を、終、る、あ、く、其、時、識

意伯劉基博學也。識緯の事ども奏進せしと聞へし。劉
基すく。帝為ちもわらわ。ひ。付の紅篋密織して。跡と
し。道はわ。大雅は。降く。と。用。事。さ。し。す。わ。わ。ら。ら。ら。ら。
は。無兵すく。は。大内は。迫く。系城さ。ら。は。今。さ。ら。ら。ら。ら。ら。ら。
時。今。し。く。大内は。火。と。り。け。て。帝。自。ら。焚死す。ら。せ。に。地。て。
其。紡。も。程。濟。の。紅。篋。と。打。碎。さ。く。見。ま。は。度。牒。三。張。三。人
の。名。も。さ。く。か。ぬ。ぬ。帽子。剃。刀。の。類。も。肉。は。焼。く。て。わ。り。又。篋
内。に。朱。書。し。て。應。文。と。鬼。門。と。す。り。其。他。永。固。の。溝。溝。を
つ。く。所。書。る。神。樂。親。の。命。と。わ。ら。ら。ら。ら。の。名。は。應。文。と。
は。建。文。帝。あ。る。く。し。聖。子。の。應。能。を。揚。應。能。を。應。能。ひ。と。る。は。應。賢。と。は。

葉希賢在す。程濟急し帝の髪を祝し。其れ八。五人も同く
髪とあはし。夜と易て。加。ぬ。帝と殿中。は。わ。ら。わ。ら。
聖。子。九。人。と。さ。ら。ら。ら。ら。丑。寅。の。門。を。し。り。け。し。神。樂。親。の。道。士
五。昇。舟。と。儀。し。て。待。け。し。帝。と。送。り。親。よ。刺。し。て。程。を
く。應。能。希。賢。と。始。と。て。す。く。二十。二。人。の。命。を。す。り。時。を。て
は。所。書。る。や。ら。ら。ら。の。紅。篋。の。織。す。く。も。た。ら。ら。ら。ら。ら。ら。
は。わ。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。二十。二。人。の。若。妻。子。と。ゆ。り。持。て。
帝。よ。さ。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。七。一。聖。子。應。能。希。賢。は。比。丘。と
な。り。程。濟。と。道人。と。號。し。け。二人。と。古。者。と。さ。ら。ら。ら。の。十九。人
と。東。海。に。聚。散。し。道路。は。往。来。して。衣。食。を。給。し。在。接。と。は。

相共あひこも言ひらばい心こころ戮あせら力ちからと。始終しじう一いつのよと。系けい極げつ暗あんすす。時とき成せい祖そ官くわん人にん
帝ていのおままとと諸しよ同どうままししにに馬ば后ごの屍ととささすす。ままああししままははささ
ててとと自みづからら焚あ死しししままくく。其その死しとと煨あ燼せんの中なかににままるるままるるてて。
洪こう英えいせせししまましし。其その後のち世よはは建けん文ぶん帝ていのよううにに死しせせししとと海かい流りゅうししるるにに
ととづづくく。ひひそそのの一いつとと搜たままくくややままいい。胡こ濊せのの令れいををくく。仙せん人にん張ちやう三さん
手てとと務む求もとりりててをを耐たええしし。実まことはは帝ていのの跟お迹せきととままつつひひんんののままああとと
ゆゆへへ。ああままししるる人にんのの物ものををせせししままんん事ことををたたまますすてて。一いつ而にははままるる居いすすもも
ううままるるひひ。君きみ臣おみののにに親おととしし。途みちををたたまますすてて。江えい方ほうにに漂ひう泊たくすす。其その後のち
後のち亡なししのの人にん皆みなくくせせままるる。支し比ひ丘きよもも相あ繼つぐぐりり分ぶんりりすす。予よももままるる。程てい濟せい一いつ
人にんををたたまますす。帝ていををまま護ごりりけけりり。或あるはは屢しばしば空くうありりてておおてて

糧りやうとと募もつすす。或あるはは侍さむらい病やまひくくちち茶ちやとと乞こふふのの崎さき嶮けん艱げん難なん之のひひややはは
るる。帝ていははままるるにに名な務むとと遊ゆう歴れきししてて。ままるる。詩しとと賦ふくく。懷くわい舊きゆう
のの情せいととししるる。其その中ちゆう一いつ首しゆををななすす。侍さむらいはは。

牢らう落らく西せい南なん四し十じゆ秋しゅう。蕭しやう々々白はく髮はつ已い盈えい頭とう。乾けん坤こん有あ恨ごん家か何なに在あ在あ。
江かう漢わん無む情じやう水すい自おの流なが。長ちやう樂らく宮きゆう中ちゆう雲うん氣き散さん。朝ちやう元げん閣かく上じやう雨う聲せい收しゆう。
新しん蒲ほ細さい柳りゆう年ねん々々綠りよく。野や老らう吞の聲せい哭く未ま休きゆう。

乞こひひすすにに人にんををたたまますす。子こ載ざいのの恨ごんををたたまますす。帝ていはは今いまままるる。漸ぜん祖そ祖そ
仁にん宗そうのの支し那なとと摩まくく。英えい宗そう正せい統とうめめすす。皇かう西せいははおおたたまますす。
帝ていとと同どう宿しゆくのの信しんおおすす。人にんををたたまますす。帝ていはは今いまままるる。胡こ延えんははわわくくまま
ままるるままるるままるる。帝ていのの詩しとと竊せつてて。自みづからら建けん文ぶん帝ていとと稱せうすす。

下もくは、瀛司其信、帝と城、繫志と、京師よ、言々、に
 程、汝、後、既、や、志、多、の、以、事、御、史、鞠、一、の、よ、其、信、と、難、固、と、も
 下、論、死、せ、程、帝、は、や、や、し、る、と、帝、南、海、の、思、ひ、お、ら、よ
 ち、ま、く、自、ら、其、実、と、白、状、せ、し、ま、は、ま、胡、定、重、官、人、の、命、を、
 探、求、り、し、ら、建、文、帝、多、事、云、疑、は、決、定、せ、し、ら、詔、お、ま、り、
 帝、と、し、ら、西、内、の、事、に、程、程、濟、と、ま、す、て、今、ら、始、く、臣、の、職、
 と、終、ぬ、と、く、終、は、迄、と、ら、あ、り、て、の、こ、ま、は、ま、の、帝、に、從、く、出、
 七、一、の、よ、ま、あ、ら、ま、く、二、十、九、年、の、下、狼、楚、と、あ、り、て、始、終、は、
 ま、ら、い、ゆ、ら、帝、と、宮、中、よ、ま、り、事、其、負、其、の、堅、き、と、ら、
 古、し、の、よ、ま、ま、り、と、ら、後、に、事、批、趙、の、文、は、ま、り、の、以、真、命、

一、然、公、は、後、に、一、の、心、を、な、ま、り、を、ぬ、る、と、ま、り、一、時、殉、
 難、と、や、し、程、汝、多、事、ハ、程、孔子、の、い、ち、ゆ、り、其、知、中、の、多、事、其、
 思、ふ、と、あ、り、し、ら、ま、り、を、程、事、と、や、ら、る、事、帝、す、ら、宮、中、に、
 一、の、宮、中、の、人、老、佛、と、い、ひ、ら、は、は、あ、ら、ま、り、と、ら、終、く、ま、り、
 一、れ、も、古、今、の、多、事、と、ら、ま、り、と、ら、つ、ら、ま、り、事、と、ら、ま、り、

手折子にゆく書風

白、子、孫、と、く、終、く、傳、命、わ、り、に、傳、と、く、翁、前、日、首、義、の
 事、と、程、下、の、一、の、心、を、な、ま、り、を、ぬ、る、と、ま、り、一、時、殉、
 事、と、ま、り、考、つ、て、見、給、く、盛、衰、榮、枯、と、世、の、常、や、ま、り、そ、ま、り、よ、
 一、れ、も、志、成、之、ぬ、ら、ま、り、又、士、の、常、や、ま、り、一、時、の、ゆ、り、に、は、ま、り、

情と度世治よりさるもやよはくやうくとやあどとくを
しゆらき。

水邊楊柳緑煙絲立馬煩君折一枝唯有春風最相惜

慇懃更向手中吹

あま唐の楊巨源の楊柳の侍やまけの句を燒ゆてち
とくはく是侍らあまう其をさ翁のよりの歌。

やまきくゆら名姓やわきまも柳の一枝とちこ春風
楊柳の一人よとまきくやあまを離まてらやう春風のそまきよ
そやてぬきやわいよ情やうへに我なまき折手とまき
やうておとるゆらゆらとやとくはく志に我

士の盛衰存亡やうくはく之ゆら多とけなぐら翁せう源平

盛衰記とあまう源氏の士中を流於流に競平家の子は源平

平家宗清の事と感せう又東鑑少く伊友九弟祐清

あまは社奉らん今考るは伊友九弟の兄
ははと社奉らん今考るは伊友九弟の兄
之の侍とせ擢ひまうの稿と抗せらぬ池原の災はうて

其後ゆらひ草と起す事もやうかするは後今其又と流も

やうと古侍ら流於競と源之位入道頼政の不便の古やと第一の

このやまもゆら治承年中頼政高倉をすわく兵と起せ

一財系師と急な翁て倉倉とて之井もく赴く打忘

くやあまは競ゆらとあませうは経よ競志あらく猶豫て

志はわすしと平字盛岡と曰ふ所競の魁偉なるを見て已
 り所はせまはるく此の頼政の親臣なるは法もきやくやうの
 事にはの多の競ひを於し結するとして波羅の事と
 人志くをせぢとけ事なるは字盛野向して汝今も我も
 之の道の恩中なるはしとく槽毛といふ馬は貝鞍をき字
 之の料とくをせし馬といふはとてこのよはの胃
 皆具しく多の競ひを競うしと事なるはわくそ第ひ
 くははまぬ一旅を人おとすて入道なる程の大事とされたり
 汝のよはとすれのことと述と真実の遺恨なる大将のふら
 多のうらひははるはわくそとて時の事とてはせよといふ

事もお建はるけしややくわさうといふ我競ひもよ勇士の義
 十八わらはるく字盛よす多のけは程とく小字けのよも
 第七騎打はさく二井寺とく打初ら波羅の門前とて
 時馬のよすころ門の内をさははるを考にいひまはる競
 ありはしり湯より馬のよ二井寺にみ懸け以脊顧と事
 出ても之位入道の恩をうてくはけは死とていふとて
 此の門前とていふ打るんとていふははとぬとて
 之井寺といふを頼政とて下りたすといふ其後平治橋の合戦
 平治の乱頼朝幼少く頼盛の家で田舎しと頼盛の母

頼朝とゆくも護りひそくその志するを止む其後頼朝
 兵と起して伊豆より相控へ赴く時祐親宇奈のこころして大
 庭景親等と石橋山より争う頼朝と追討はる其後頼朝
 すく東国平定し自ら大兵を率て駿河に赴き
 時祐親を生捕て殺し其罪を決す時祐親と八祐親の婿
 三浦義澄は然らば祐清とて出でて勅賞を賜ふまんとお
 すしに祐清も亦恩中より殺さるる父因らば其子勅賞
 せらるるはゆくり家を殺し給ふす八平も亦ゆきしとて
 十も八も我を救ひて殺すきやうありとてあつて
 頼朝やまきも祐清もまかりすしに京師より大井より平定に

属し後深平其合戦はける討死せしげきすけ二人時代も
 大なる同く志背も相似るその時高義源平の月を求る
 小其類すやうお身付り下り元弘建武の乱より争ひ天下板
 蕩の月死せ死せ死せの士限り相及の中より氣とりて安友た遣
 聖秀の事と感して高時志はけ聖秀は八條高時の臣なり
 新田義貞の妻の為らば伯父なりし八條倉すくは陥る時
 彼女房義貞の文は我文と誤るひそかに聖秀の事とけは八
 一はけ聖秀と高時將となりて新田の兵と我し即等た
 た討死し聖秀も高時もあつて引く高時
 下は屋形より争ひ東播磨へ流るるとし八は屋形の焼

跡中々討死の者多く見ゆゆりや同輩に一人も足らぬや
 つ哀聞ては惜き事。此等敵を討つて死せん余は汝等の
 の如く心願ふは自害せんとも。百余騎と相従へや。この
 おとどしし。のど。好まうて。荒とやう。さう。さう。も。奇。廉。は。し。
 大度高牆。忽は灰燼とや。ゆめゆめと人々。聖秀。感慨。は。た。た。
 涙とす。惘然と。して。立。多。多。西。彼。文。と。と。て。其。事。を。ぬ。そ。を。披。
 き。凡。ま。は。鎌。倉。の。五。子。後。今。と。さ。く。と。し。て。其。事。を。し。し。い。の。り。も。
 志。く。し。あ。る。人。は。ち。少。分。は。之。く。も。中。室。に。し。と。あ。る。聖。秀。是。
 と。乃。今。大。さ。な。色。を。披。して。中。室。に。し。と。さ。く。今。さ。う。と。思。ふ。治。
 志。く。人。と。志。く。あ。る。分。は。今。事。の。事。に。勝。つ。隊。人。は。な。り。て。い。ち。お。

ハ。豈。耻。と。志。く。多。多。老。と。い。ん。や。さ。ま。は。女。性。の。中。く。多。多。い。る。や。
 の。事。と。い。う。と。も。義。貞。勇。士。の。義。と。志。く。さ。ら。ば。さ。ら。す。や。あ。る。と。別。
 せ。ら。あ。る。又。義。貞。あ。る。の。件。名。を。法。じ。も。に。い。は。さ。り。と。
 も。お。の。方。ハ。我。の。こ。は。彼。の。名。を。失。う。や。思。ふ。ま。は。か。て。是。と。距。を。
 危。し。に。似。し。と。長。と。ち。り。た。く。さ。ら。や。一。行。と。う。し。一。行。ハ。怒。
 也。彼。使。の。乃。る。事。あ。く。其。文。と。刀。よ。来。す。か。く。腹。を。き。切。て。死。は。け。
 子。嗚。呼。聖。秀。い。ち。あ。る。人。と。や。義。氣。の。勇。壯。志。操。の。潔。白。に。
 る。さ。ら。す。や。わ。り。あ。る。と。い。は。す。と。代。り。と。さ。回。務。頼。の。長。小。宮。
 山。内。播。磨。義。貞。最。感。嘆。す。に。何。と。お。き。内。播。磨。務。頼。と。有。
 の。長。あ。る。と。天。正。年。中。の。事。也。内。播。磨。人。と。年。記。一。巻。に。

事ありつね。勝頼諛人の云とありて。内膳。石室は決し
 の。内膳罪せして。やうく逐志をそまらるる。程よ。是非を家
 執。飛く。教月を。織田の兵甲列。礼介。猪頼敗
 かり。故府と。温井常陸女と。諛甲二人の兵と。天
 目山中。大寺と。とき。内膳。身と。赴。道中
 追討。さきの内膳と。若。義と。諛せ。若。同。き。な
 逃。去。ぬ。と。内膳。慷慨。て。この人。よ。い
 之。君。家。と。ひ。す。て。棄。今。お。其。死。せ。六
 義。と。指。す。は。似。又。死。せ。の。義。と。や。ゆ。の。義。の
 と。指。す。も。長。の。義。と。傷。し。と。四。十二。人。同。く。四。難。は。殉。以

今。甲。列。の。士。皆。勝。頼。と。逃。去。一。に。甲。十二。人。を。そ
 傾。覆。流。離。の。乃。は。は。ま。り。て。さ。く。三。人。や。く。國。難。は。殉。以
 心。道。も。其。義。の。士。と。中。は。内。膳。八。諛。と。て。冤。枉。の
 ひ。も。然。後。從。者。の。列。中。も。わ。ら。ぬ。執。指。の。身。と。て。外。は。死
 赴。死。す。其。忠。烈。を。温。井。常。陸。女。と。あ。り。し。織。田。滅。亡。の。後。
 東。照。宮。内。膳。の。忠。義。と。ゆ。く。感。は。れ。其。子。や。う。して。お。託。乃
 絶。を。哀。れ。給。く。内。膳。の。身。小。文。山。又。七。希。と。り。お。ま。り。其。後
 小。向。原。陣。の。お。武。職。の。人。と。き。と。お。り。ま。り。又。七。希。と。り。以。長。柄
 倉。守。乃。作。付。ら。ま。り。其。時。内。膳。の。勝。頼。に。對。し。て。忠。義。を
 下。す。事。と。り。は。い。は。れ。は。ら。ま。り。然。は。武。士。の。子。に。お。ま。り。ぬ。

又七希、さう弱きがまゝでも、元内務の忠義と感し、思ふよき
て、守りき職と令せらるゝあやうと、意あつて死せりとも、藩死後
のや、り、忠義の驥と申る。

烈女種あり

翁ひ？加賀よわろし、時おひ人のいひ、ハおき人の徳悪、小
よら、改めぬ、世といひ、けわ、舊悪、わ、一も、疾、中、世、
多、改、め、く、も、い、ひ、し、世、の、多、ち、か、き、ま、ゆ、ら、い、わ、ら、し、の、死、ぬ、ま、
場、ま、ら、し、一、多、ち、と、ぬ、す、し、一、多、ち、と、け、ゆ、ら、い、わ、ら、し、い、ま、す、わ、ら、
て、一、生、の、疾、と、ま、り、て、其、人、ま、り、す、ま、り、ぬ、ら、く、あ、ら、ま、し、の、
孝、よ、ま、り、く、若、中、の、男、女、ま、り、に、幼、少、ま、り、忠、義、の、ま、り、常、に、い、ひ、き、

いせて、志とす、い、ま、り、き、ま、り、し、や、お、ま、り、す、わ、ら、し、ゆ、り、す、ま、り、
ぬ、ら、し、柔、順、と、ま、り、て、剛、健、と、ま、り、す、ま、り、い、ひ、わ、ら、し、し、の、婦、
女、ま、り、て、い、ひ、一、ゆ、ら、し、と、ま、り、い、ひ、ま、り、一、ま、り、の、ま、り、わ、ら、し、
ら、し、て、節、義、と、ま、り、わ、ら、し、日、て、後、の、婦、節、も、い、ま、り、古、よ、ま、り、
衛、の、共、善、と、始、り、て、歴、代、貞、節、の、女、世、は、絶、せ、ん、漢、の、陳、孝、婦、魏、
の、令、女、の、ま、り、と、米、子、の、小、学、に、書、お、も、載、ま、り、い、ひ、ま、り、ぬ、ら、し、い、ひ、
ま、り、ま、り、い、ひ、ま、り、衛、侯、の、夫、人、南、子、の、忠、臣、不、為、昭、々、信、節、不、為、
冥、々、情、行、と、い、ひ、令、女、の、仁、者、不、以、盛、衰、改、節、義、者、不、以、存、亡、
易、心、と、い、ひ、ま、り、婦、人、の、言、中、に、似、ま、り、耳、と、い、ひ、ま、り、
訓、と、い、ひ、ま、り、是、れ、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、令、女、ハ、言、よ、ま、り

是。其乃相叶ひあるハ。えよす。いつきやうあり。南子ハ。是は。の。見
 識ちきあり。す。ろ。淫行えんぎやうあり。そ。い。と。罪つみあり。是ゆき。古ふる又また文
 夫ぶと。傳つたへ。る。く。貞てい女にょ世せい子し。く。ま。あ。け。は。倭漢わかんの。似にて。ま。わ
 下した。漢かんの。平帝へいてい。此こ皇后くわうごう。と。王わう莽まうの。女にょや。も。父ふち莽まう漢かんの。臣しんと。て。天
 下したと。篡せんひ。正帝せいだいと。弒しつせ。し。い。く。経けいや。く。漢兵かんべい起おこて。莽まうと。攻滅せめつし。
 て。ら。わ。皇后くわうごう官闕くわんけつ。火ひの。子こと。と。ん。く。我われが。あ。の。面めん目もくわ。す。漢兵かんべい
 見みえ。ん。や。と。い。く。自みづから。火ひを。投なげ。し。て。不ふ活かつひ。給たまひ。たり。我われが。お。ま。
 長岡あかつか越中えちゅう。忠貞ちゅうせいの。夫人ふじん。昭あき智ち光秀こうしゆの。女にょや。も。す。く。父ちち光秀こうしゆ
 織田おだ信長のぶながの。臣しんと。て。信長のぶなが。父子ふしと。弒しつし。し。羽柴はてがき秀吉しゆきち。西國さいこく
 より。軍ぐんを。還かへし。て。光秀こうしゆと。滅めつし。ぬ。其その後のち。関原せきげんの。乱らん。忠貞ちゅうせい大軍たいぐん

一。後のち。同どう東とう。と。り。と。と。き。其その終しゆう。石回いしわい。兵忠貞べいしゅうせいの。彼か。ま。あ。く。
 夫人ふじんと。ろ。ろ。ア。ゆ。ん。と。い。け。ん。夫人ふじん。今いま。と。ま。つ。余あまと。惜おしく。夫家ふけの。辱はづかしを。
 賄まかさ。敵てきの。う。と。つ。ら。ぬ。せ。よ。や。く。自みづから。果はつ死しせ。と。と。ハ。其その
 義ぎ。す。や。ら。ま。く。あ。も。の。士し。小笠原おがさわら。孫まご。河か。石見いみ。館たね。火ひ。と。り。け。く。
 あ。や。も。り。ひ。く。後のち。と。ら。何なにの。局くわうと。い。ふ。女にょ房ぼう。其その外ほか。之これ。ハ。公こう。以もつ。て。は。ら。
 火ひ。中なかつ。と。り。ひ。く。死し。あ。ま。今いま。と。ま。つ。世よ。と。つ。と。あ。く。い。さ。き。を。ま。す。
 あり。て。以もつ。て。傳つた。へ。ら。か。ら。大逆たいぎゃく臣しんの。女にょ。と。く。ま。貞烈ていりつの。人ひと。あ。り。け。り。
 也なり。と。子こ載せんと。な。す。と。く。孝平かうへい。皇后くわうごう。と。な。ら。ぬ。と。其その外ほか。ハ。は。
 倭漢わかんと。も。は。あ。く。類るい。や。も。さ。や。も。さ。と。ハ。名な。め。よ。種たぐひ。や。り。と。
 一。竹たけ。の。の。翁おきな。と。列女れつにょ。あ。も。種たぐひ。や。り。と。と。そ。の。外ほか。ハ。名な。め。よ。種たぐひ。や。り。と。

客にやその種なきにあらざらん。けしき義の心仁義
 の性を種として生るべし。世にやして氣力なきものは
 物少くゆら。或は筋力のところ。丈夫をわたり。婦女もたたり。或は
 威儀のところに。良家は八節あり。早族中をたたり。やわら
 ひし。今幸性を種として生する故に。父祖の中より。世類は
 もろく。種もたると。人の子中も。悪人の子中も。善人の子中も。男
 女貴賤も。もろく。父祖親戚中も。もろく。是れは。宗族。翁
 打感して。是れこそ。己の徳の徳も。此翁の。人々の類の種も。
 と知る。天性の種も。徳をたると。かゝり。世にやして。是れは。人々の
 婦女又も。早賤。節義の行おひ。甄揚して。幸甚天性。乃

種もたると。徳し。ス。下賤の行。い。やき。婦女等。よ。さ。く。若義
 お。ま。士。大。丈。と。も。ろ。く。も。ろ。く。お。ろ。く。き。や。と。お。ひ。出。人。の。義
 し。と。真。起。す。り。お。ろ。く。や。ま。り。ゆ。ら。い。か。その。人。ら。中。も。似。て。お。ろ。
 特。と。ま。く。侍。れ。ば。源。義。経。の。妾。静。の。女。中。も。お。ろ。く。お。ろ。く。京。師。よ。
 く。名。と。得。り。た。舞。妓。や。も。ろ。く。の。材。色。と。も。ろ。く。義。経。は。寵。せ。ら。
 る。け。し。き。義。経。が。た。る。け。し。時。お。ろ。く。若。野。も。ろ。く。は。ま。ま。と。ひ。て。の。
 る。ま。の。も。ろ。く。お。ろ。く。若。野。と。頼。朝。孫。舎。け。し。よ。さ。く。義。経。の。り
 米。と。こ。ろ。も。ろ。く。も。ろ。く。若。野。も。ろ。く。若。野。も。ろ。く。ぬ。り。と。う。す。程。は
 さ。く。放。ち。て。さ。ら。り。る。も。ろ。く。義。経。の。子。と。懐。胎。し。て。わ。ら。き。
 程。上。誕。生。す。る。と。も。ろ。く。若。野。も。ろ。く。と。わ。ら。し。る。あ。ひ。て。舞。曲。の

無以下體の謂や。

澤橋の母

加賀の前回家より。母は八丈嶋浮回家子孫の事や。資用
 の事あり。小金幾星丹茶幾包。其外瑣細の物件定致わす。
 同籍の事。公に此官吏に付て。八丈の海へ送せし。前發
 じわじわ時。其の事と故老に問ふ。沢橋兵太夫といふ者あり。起り
 多岐才や。豊后太岡の時。前回家の先祖。大納利家乃女也。
 太岡養女とす。浮田秀家と嫁す。是秀家の夫人なり。物に
 愛長年中。同原師散して後。秀家石田方の渠魁多きは。
 死罪と處せし。是より。嶋津家の乞食より。子ありて死一

等と減り。秀家并其子八郎。八丈の嶋へ竈逐せし。故
 八郎の乳母あり。其の事とて。逃去ぬ。其の女房。後より
 八郎の幼少ありて。乳母を離さく。是く島へ赴くと。ゆゑに後
 一。徒然中。官廳へ詣り。是より。八郎は侍とて。増し到
 所を。乳母の事と。制禁むす。程は。是の由り。女房は
 八郎の母あり。是くわらじと。すくは自殺せんとす。官
 吏は之を。是く識り。其の女房は。同家のあり。見たり。後
 八郎は。後より。是きたる時。子使あり。月より。やすと。窺は
 と。一。此の事と。わらやん。は。窺ひ奉り。此の事と。は。中
 す。は。是く。わらやん。と。窺ひ奉り。女は。是く。は。中

へははくはと命下りし。女房限なくおぼしめし。秀家父
子よりまきく徳の赴きらふ。其時之儀は子を抱き、淳回家
の夫人のまじりし。目も八尋の曹子の御事。解り、あはれ
其の御事ゆく徳の赴きらふ。其の御事あはれし。其の御事
御側の人へ信付し。まじりし。其の御事あはれし。其の御事
まじりし。夫人の御事あはれし。其の御事あはれし。其の御事
家子八尋の先途は是居し。若やまはけ子とわ。子とおぼし
あはれし。其の御事あはれし。其の御事あはれし。其の御事
若くはわしきん志し。其の御事あはれし。其の御事あはれし。
よ釣る。高家は依くおぼし。其の御事あはれし。其の御事あはれし。

よき。加賀國人夫人と稱して。佐藤君と云。今其妻加賀の
お。夫人在世の時、加賀氏の子成長く。仕へき程にや。其の御事
家の子はまきく。やにゆき。付執せし。其の御事あはれし。其の御事
は橋兵衛のいと名をたけ。其の御事あはれし。其の御事あはれし。
涙とあはれし。其の御事あはれし。其の御事あはれし。其の御事
形とまきく。信とや。其の御事あはれし。其の御事あはれし。
元和のし。信とや。其の御事あはれし。其の御事あはれし。

將軍家御上落わす。二條の御城へ入せし。其の御事あはれし。其の御事
駕輿ち。新帳と稱す。其の御事あはれし。其の御事あはれし。
其の御事あはれし。其の御事あはれし。其の御事あはれし。其の御事
其の御事あはれし。其の御事あはれし。其の御事あはれし。其の御事

夫ととく萬乘の事を勤り奉じます。玉汝の致す事と
 爲り。物々も是程の事と加答せり。今と河清すべしと稀な
 る。其世のわらふ事及びて堪へず。口惜しむる。上の仁
 政と勿論の事とし。よく下情とあり。早賤の義とあり。た
 てやま。う。と。御と。さ。う。さ。り。ま。ま。
 御祖刻の事と。國家の元氣と。貴きもの思。り。や。く。も。わ
 らん。浅智短意の及。つ。た。わ。ら。ん。

天野之帝之傳

他日。徳客。身。會。せ。し。に。翁。の。若。く。も。前。日。茂。義。の。事。と
 中。け。り。但。節。義。と。事。變。よ。ら。く。わ。ら。ん。と。是。の。事。居。を。事

の時と。い。く。廉潔。耿。女。の。士。と。世。の。貴。き。者。と。は。凡。官
 職。に。任。せ。る。は。必。潔。く。事。變。よ。ら。く。必。節。義。と。わ。ら
 ん。常。變。と。の。間。の。用。に。立。て。の。み。ず。く。智。勇。わ。ら。ん。
 一。人。二。職。に。任。して。一。に。用。に。あ。ら。ん。と。儲。司。の。職。と。命。す。れ
 ば。人。の。の。廉。潔。な。る。と。撰。之。し。と。は。是。に。依。り。は。必
 固。家。わ。ら。ん。其。の。廉。潔。な。る。と。は。持。威。と。貪。み。又。と。名。聞。が
 け。し。め。れ。ば。相。々。の。よ。ら。く。必。相。も。神。の。の。や。ま。さ。る。行。な。か。ら
 ず。あ。く。相。和。す。と。も。肉。を。中。く。わ。め。や。く。と。も。友。智。も。勇。も。相
 せ。ず。剛。も。剛。と。別。と。や。る。は。柔。も。柔。と。や。る。は。多。く。會。議。と。ら
 せ。く。先。格。と。ら。れ。後。難。と。わ。ら。ぬ。や。く。裁。断。す。と。や。く。い。は。れ。て。

園家におのゝ推多らるゝ強と人々をさすめて法中とつと
龍とゆへてさうぬずもおほきとつし永源の了後。

東照宮冬河より往て多し一時河別法と定やらま高力と
た博つ長も多他れを定法天野と帝を清康景とすなりは
付ら子共「徳興」人の談ふ佛高力鬼作たさるんやう一乃
天野と帝清とつりさる。さるるんやうと。た右遷就して
一決せぬの信信やま。け勝ともく若り高力ハ多寛仁
ありて。幸多。あまきふ。まえん。本多と多。常決して。高
力。慈怒。さうまを。天野ハ高力。本多。裁り。さう。ひん
やう。多。及。理。決。やう。て。が。も。じ。と。多。あ。り。ぬ。と。刀。之。か。あ。ま。は。

之人もいへう。廉潔ありて。奔競の人をさす。同職もあ
せん。其又同職とおもふん。せん。其。さ。よ。而。の。ん。れ。さ。ん。ゆ。り
あ。ま。と。及。ん。そ。の。後。決。然。や。ま。同。職。は。信。行。さ。ま。し。始。と
思ひく。や。一。致。せ。ぬ。や。に。及。ん。に。け。こ。人。さ。く。國。政。多。く。
法。中。治。ま。す。一。程。は。目。の。此。は。ま。す。事。人。く。感。服。し。ま。る
し。と。や。る。高。力。本。多。の。人。の。事。は。さ。り。き。ま。る。天。野。之。氣
ハ。長。年。中。後。列。真。國。寺。の。地。ま。し。て。之。百。石。と。領。し。ま。る
領。地。の。竹。と。さ。し。せ。き。當。他。の。為。榎。多。く。是。將。之。人。さ。り。て
ま。ら。現。在。の。水。領。田。原。の。一。民。け。竹。と。盜。取。し。八。妻。と。せ。し
是。將。之。竹。と。盜。一。人。と。ま。す。と。殺。し。強。堂。逃。み。り。代。官。并。さ

某に併ふ。井心民の事。おとさし事。せざる事。ハ。わらはさう。の。行と
 盗し事多し。このや。ぬ。あ。わ。ら。ん。人。と。康景の。と。は。け。に。
 河内民。よ。あ。り。て。卒。を。殺。す。事。罪。也。速。
 其。は。刑。と。償。を。と。ま。り。て。し。め。し。康景。盗。と。殺。す。け。
 古今の。法。や。る。や。あ。ら。と。衆。と。共。其。か。の。は。刑。私。に。殺。し。
 よ。わ。ら。康景。下。知。し。て。あ。ら。し。ま。し。け。ず。謀。ま。ら。ば。
 康景。罪。は。死。せ。ら。ん。と。く。が。も。許。容。の。氣。色。や。り。升。と。其。
 ま。い。ら。ん。と。や。ら。し。き。た。つ。民。實。を。と。め。と。た。ん。公。事。此。罪。に。
 く。了。然。と。く。と。康景。已。の。足。刑。を。名。擔。し。て。償。せ。ら。の。う。
 言。上。へ。公。事。ハ。康景。の。も。と。下。に。人。を。と。ま。り。て。償。せ。ら。の。う。

事。も。前。の。あ。ら。し。め。ら。れ。り。と。し。
 東照宮。ま。り。り。て。康景。は。あ。ら。ん。る。義。の。不。為。わ。ら。ん。に。
 一。と。は。た。の。い。さ。欺。り。と。あ。ら。ん。後。日。は。池。田。同。じ。と。し。
 實。居。と。定。り。て。あ。ら。し。め。ら。れ。り。と。し。多。上。野。女。心。純。と。
 康景。の。も。と。に。け。ら。れ。り。と。し。あ。ら。し。め。ら。れ。り。と。し。一。多。上。野。女。
 心。純。と。定。り。て。あ。ら。し。め。ら。れ。り。と。し。池。田。同。じ。と。し。と。し。
 守。り。て。ら。ん。と。し。一。心。純。と。定。り。て。あ。ら。し。め。ら。れ。り。と。し。池。田。同。じ。と。し。
 一。多。上。野。女。心。純。と。定。り。て。あ。ら。し。め。ら。れ。り。と。し。池。田。同。じ。と。し。

わらひ下^{ちよん}谷^{やん}又と異なりありはとて。いはちさしやき^{やく}逐^と電^{でん}す^りの
方と志^し進^{しん}す^りとけし^し其^{その}後^ご。

台廟の漸^{しん}時^じは及^{およ}く。あ^あけ^け人^{にん}駿^{せん}遠^{えん}わ^わる^るま^まの地^ちを^をく^くわ^わと^とき^きん。
甚^{しん}可^かと^と多^たり^りう^うま^まに^に人^{にん}の^の仙^{せん}人^{にん}と^とお^おし^しき^きま^まり^りあ^あし^しに^に其^{その}
仙^{せん}人^{にん}と^と他^たの^の代^{だい}と^とさ^さか^かの^の君^{きみ}と

将^{しょう}現^{げん}様^{やう}の^の子^こ漸^{しん}代^{だい}と^と終^{つひ}せ^せ終^{つひ}ふ^ふと^とい^いふ。

権^{けん}現^{げん}様^{やう}と^と多^たり^りま^まと^と同^{どう}く^くの^の終^{つひ}ふ^ふと^とい^いふ^ふを^をい^いひ^ひき^きま^ませ^せ
る^るは^はその^{その}時^{とき}より^{より}合^{がっ}点^{てん}して^{して}去^さ并^{へい}甚^{しん}と^と存^{ぞん}と^とい^いふ^ふの^のあ^あり^り
の^のま^まに^にう^うや^やま^まの^のゆ^ゆめ^めと^と同^{どう}き^きと^とい^いふ^ふ。甚^{しん}と^と存^{ぞん}ハ^ハ去^さ并^{へい}の^の事^{こと}
なり^り。其^{その}事^{こと}世^よに^に治^ちあ^ある^る。其^{その}仙^{せん}人^{にん}と^と大^{だい}に^にあ^ある^る。去^さ并^{へい}と^と言^いふ^ふは^は

あ^あけ^けん^んと^とい^いひ^ひま^まる^る。康^{かう}平^{へい}後^ごの^のよ^よわ^わる^る。世^よに^に甚^{しん}と^と存^{ぞん}す^すて^てに^に去^さ并^{へい}
頭^づと^とい^いふ^ふ。その^{その}仙^{せん}人^{にん}甚^{しん}と^と存^{ぞん}と^とい^いふ^ふは^は去^さ并^{へい}六^{りく}康^{かう}平^{へい}と^とい^いふ^ふは^は
し^しと^とい^いふ^ふ人^{にん}と^とわ^わる^る。古^こ人^{にん}と^と真^ま率^{そつ}と^とい^いふ^ふは^は去^さ并^{へい}の^の事^{こと}なり^り。
ま^まに^にう^うや^やま^まの^のゆ^ゆめ^めと^と同^{どう}き^きと^とい^いふ^ふ。其^{その}仙^{せん}人^{にん}と^と他^たの^の代^{だい}と^とさ^さか^かの^の君^{きみ}と
い^いふ^ふ。其^{その}事^{こと}世^よに^に治^ちあ^ある^る。其^{その}仙^{せん}人^{にん}と^と大^{だい}に^にあ^ある^る。去^さ并^{へい}と^と言^いふ^ふは^は
あ^あけ^けん^んと^とい^いひ^ひま^まる^る。康^{かう}平^{へい}後^ごの^のよ^よわ^わる^る。世^よに^に甚^{しん}と^と存^{ぞん}す^すて^てに^に去^さ并^{へい}
頭^づと^とい^いふ^ふ。その^{その}仙^{せん}人^{にん}甚^{しん}と^と存^{ぞん}と^とい^いふ^ふは^は去^さ并^{へい}六^{りく}康^{かう}平^{へい}と^とい^いふ^ふは^は
し^しと^とい^いふ^ふ人^{にん}と^とわ^わる^る。古^こ人^{にん}と^と真^ま率^{そつ}と^とい^いふ^ふは^は去^さ并^{へい}の^の事^{こと}なり^り。
ま^まに^にう^うや^やま^まの^のゆ^ゆめ^めと^と同^{どう}き^きと^とい^いふ^ふ。其^{その}仙^{せん}人^{にん}と^と他^たの^の代^{だい}と^とさ^さか^かの^の君^{きみ}と
い^いふ^ふ。其^{その}事^{こと}世^よに^に治^ちあ^ある^る。其^{その}仙^{せん}人^{にん}と^と大^{だい}に^にあ^ある^る。去^さ并^{へい}と^と言^いふ^ふは^は
あ^あけ^けん^んと^とい^いひ^ひま^まる^る。康^{かう}平^{へい}後^ごの^のよ^よわ^わる^る。世^よに^に甚^{しん}と^と存^{ぞん}す^すて^てに^に去^さ并^{へい}
頭^づと^とい^いふ^ふ。その^{その}仙^{せん}人^{にん}甚^{しん}と^と存^{ぞん}と^とい^いふ^ふは^は去^さ并^{へい}六^{りく}康^{かう}平^{へい}と^とい^いふ^ふは^は
し^しと^とい^いふ^ふ人^{にん}と^とわ^わる^る。古^こ人^{にん}と^と真^ま率^{そつ}と^とい^いふ^ふは^は去^さ并^{へい}の^の事^{こと}なり^り。
ま^まに^にう^うや^やま^まの^のゆ^ゆめ^めと^と同^{どう}き^きと^とい^いふ^ふ。其^{その}仙^{せん}人^{にん}と^と他^たの^の代^{だい}と^とさ^さか^かの^の君^{きみ}と
い^いふ^ふ。其^{その}事^{こと}世^よに^に治^ちあ^ある^る。其^{その}仙^{せん}人^{にん}と^と大^{だい}に^にあ^ある^る。去^さ并^{へい}と^と言^いふ^ふは^は

結^ゆの^のゆ^ゆり

櫛びりよるく如く。膝ひざの上より大巾を捲く。すのこに上りて
一枚發あるよきして終り多し。儀ぎは遺書一通あり。捲く。尺
年来家老の恩と志をぬりて。志あり。お。寺への行。さく
も并に家老の宿代のいふ。すまひ。て。終。て。い。令。を。く。り
尺。終。り。ゆ。と。く。遺書は令を捲く。終。り。お。て。ん。と。さ。て。く。具。足
櫃ひらの中より己の刻ち。すま。い。く。や。き。ん。の。體よらひ一領。皆具まじの。あり。也。
若令に枚。い。ま。ま。を。す。大。小。の。志。さ。く。も。ゆ。り。く。し。く。わ。れ。皆。金。こ
一。兩。の。す。ま。い。す。く。衣。服。と。志。き。り。物。の。さ。く。も。皆。令。得。令。得
の。ま。の。望。の。も。さ。く。百。日。中。を。食。物。と。志。く。り。あ。る。乳。文。と。志。く
さ。く。も。さ。く。い。ま。も。私。中。に。決。し。て。く。時。の。町。奉。り。取。り。も。さ。く。は。其

若の遺書のより沙汰して。い。ま。の。す。ま。い。わ。て。い。れ。後。日。に
忠。秋。も。き。く。ま。く。さ。く。も。餓。死がし。せ。り。よ。ら。ふ。作。れ。す。や。る。
と。し。て。遺。書。と。や。る。も。世。に。中。傳。り。作。れ。浮。た。る。常。世。の。す。ま。い。さ。く
お。い。れ。す。ま。い。す。く。さ。く。も。或。人。と。志。く。り。右。記。に。野。通のを。物。
あ。る。の。限。り。及。び。揚。洲。の。國。難。波。の。浦。北。老。尼。の。す。ま。い。と。志。く。り。て
遺。書。に。あ。る。物。や。る。と。志。く。り。さ。く。も。わ。ら。ん。の。す。ま。い。と。志。く。り。も
せ。り。餓。死がし。せ。り。浪。士うらや。り。と。志。く。り。今。の。世。に。常。世。の。す。ま。い。と。志。く。り。上
よ。ら。た。す。わ。ら。ん。一。麥。は。世。に。事いく。ま。す。疑うり。と。志。く。り。昔。の。常
世。に。あ。る。と。志。く。り。世。に。あ。る。と。志。く。り。人。と。志。く。り。餓。死がし。て。果。然がに。あ
る。其。身。も。さ。く。も。念。に。あ。ら。わ。る。や。り。の。人。世。に。あ。る。と。志。く。り。

後醍醐天皇 卷之三十一

五十一

諸子侍る人となり。やけりて我事やう也。

二人の乞児

世に何と凡俗無く。利慾よりしる道とも。人の性もや若
おの程。族姓もよしが。やうは。おもむき。乞食伴の若よ
もち。ちり。さり。に。義理と。志。の。心。わり。そ。り。朱子。小學。此。書。事
このころ。こひと。ま。め。て。ん。と。お。た。つ。ち 茲。事。類。極。天。圖。墜。と。い。ひ。と。信。り。て。誣。さ。り。事。と。し。て。れ
之。以。信。也。け。十。年。心。あ。享。保。癸。卯。の。歲。北。上。月。十七。日。江戸。室。町
の。商人。越。後。屋。若。者。と。い。ふ。若。の。手。代。市。十。布。徳。方。の。買。手
の。令。徳。な。く。ゆ。り。し。の。令。と。指。支。入。多。分。儀。也。と。い。ふ。事。り。取。
さ。り。め。く。塗。中。く。お。さ。り。多。分。儀。の。や。く。お。け。ん。と。を。や。わ。り。し。

きとらおとひかり。く。と。や。事。路。と。信。く。に。為。り。わ。り。程。
中。於。市。乞。食。一。人。お。り。し。見。と。ら。く。わ。り。成。為。ゆ。と。い。令。
と。お。さ。り。し。や。く。と。不。さ。や。と。い。取。り。て。市。十。布。も。さ。り
と。て。あ。り。よ。り。に。諸。子。と。ま。は。し。ま。り。と。義。理。指。引。せ。り。其。子
の。多。き。ひ。も。ね。事。と。わ。れ。し。と。そ。道。と。信。く。し。と。き。程。も。し。け
下。り。お。り。や。く。ひ。ん。も。様。事。事。取。り。と。き。く。多。分。儀。や。く。信。
の。儀。と。い。ふ。市。十。布。令。の。負。教。又。と。申。す。わ。り。説。文。お。し。と。の。や。り。
一。く。い。ひ。ま。り。の。せ。に。さ。り。と。銀。や。り。と。き。其。切。儀。の。や。り。わ。り
信。し。事。り。市。十。布。信。の。事。り。さ。り。や。り。わ。り。て。内。又。取。り。お。り。て。
乞。食。と。ま。り。く。そ。あ。の。得。余。と。せ。り。事。り。と。き。わ。り。と。き。也。

中へおのきききり。市十部つひにけりけり。ひさかた物に
りまへに。その志は。いかに。あつて。いかに。いかに。いかに。
は。我れ。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。
其の。あつて。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。
と。自分。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。
の。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。
あつて。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。
返す。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。
志。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。
見。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。

よ。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。
酒。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。
中。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。
名。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。
中。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。
昔。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。
多。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。
合。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。
代。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。
其。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに。

死骸を以て。若し一月毎に。一。かりのち。此を食する。其のわは。作
て。その重さ。と。酒肴。と。あ。人。も。死。を。世。其。身。も。多。少。の。
多。け。け。ぬ。め。も。多。く。た。ゆ。り。合。傷。つ。つ。ひ。今。時。急。死。し。
い。と。い。ふ。死。す。り。市。十。席。に。死。骸。を。見。し。け。若。し。け。死。骸
を。ら。ひ。あ。り。の。ま。と。く。粗。忽。と。死。し。移。と。く。ら。死。と。思。く。い。合。せ。
さ。く。あ。り。湯。を。其。よ。う。と。若。き。傷。よ。い。ひ。と。せ。い。は。り。人。と。つ。
ろ。く。死。骸。を。け。死。た。の。み。あ。れ。り。ひ。や。と。く。な。死。を。縁。奇。や。く
厚。く。葉。す。り。や。や。ん。若。き。傷。も。義。上。感。ず。り。市。十。席。買。中。の
奇。特。と。い。ふ。日。了。後。加。賀。侯。春。の。用。を。き。く。か。入。す。り。死。骸。よ
も。代。市。十。席。その。月。の。廿。日。加。賀。の。邸。へ。申。す。この。家。の。役。人。よ

始終。治。り。と。り。て。氣。よ。き。う。す。り。人。わ。り。す。世。よ。は。似。ら。や。う
の。す。わ。り。と。打。ゆ。り。人。の。と。好。し。に。さ。く。や。り。や。り。是。程。奇。り。
た。り。す。り。と。き。り。死。す。り。き。り。多。く。死。す。り。と。あ。り。もの。こ。は。死。者。也。
信。り。信。り。と。り。と。り。ハ。信。り。人。よ。わ。り。信。り。は。死。ハ。死。合。の。當。り
ハ。一。先。定。め。く。と。や。り。と。り。と。り。ぬ。め。の。に。わ。り。と。り。孤。寡
き。と。り。と。り。と。り。家。と。や。り。と。り。合。と。り。わ。り。と。り。死。よ。か。の。死。合。と。一。例
こ。は。り。と。り。是。程。や。り。若。し。の。下。は。屬。一。若。し。か。と。り。死。む。と。り。と。り
は。ち。の。り。と。り。甲。斐。や。り。若。し。と。り。と。り。と。り。若。し。合。と。り。と。り。酒
肉。と。り。や。り。火。伴。と。り。親。會。り。と。り。死。は。是。と。限。り。と。り。と。り。と。り。
自。ら。候。や。と。り。と。り。死。若。し。も。わ。り。と。り。と。り。と。り。と。り。と。り。と。り。

加賀藩の... 五七

わたりしとくしとくをよきと出陰此乃と甄揚すれは吾使
の任やると今物落せし結糸の何じと念八之傳の類世との成
多りしと氣のきやゆきとせんきつてと、さるかに世に昔
我が勅撰の本物集とんらふとや、一、貴女房妓女の歌も、天子
云々名と列とれと、倭歌一尊卑此系別や、是が倭歌
の徳と、今翁の節義と治子と、良家名族の士、
乞食やととと垂く天とて、和の、和すれも、其の亦あ、や、
節義と貴賤のなると、是が義の徳と、一、名と
と、き、れ、れ、翁、謙、海、不、倫、と、と、以、給、ふ、多、ら、し、

駿志雑話卷二畢



